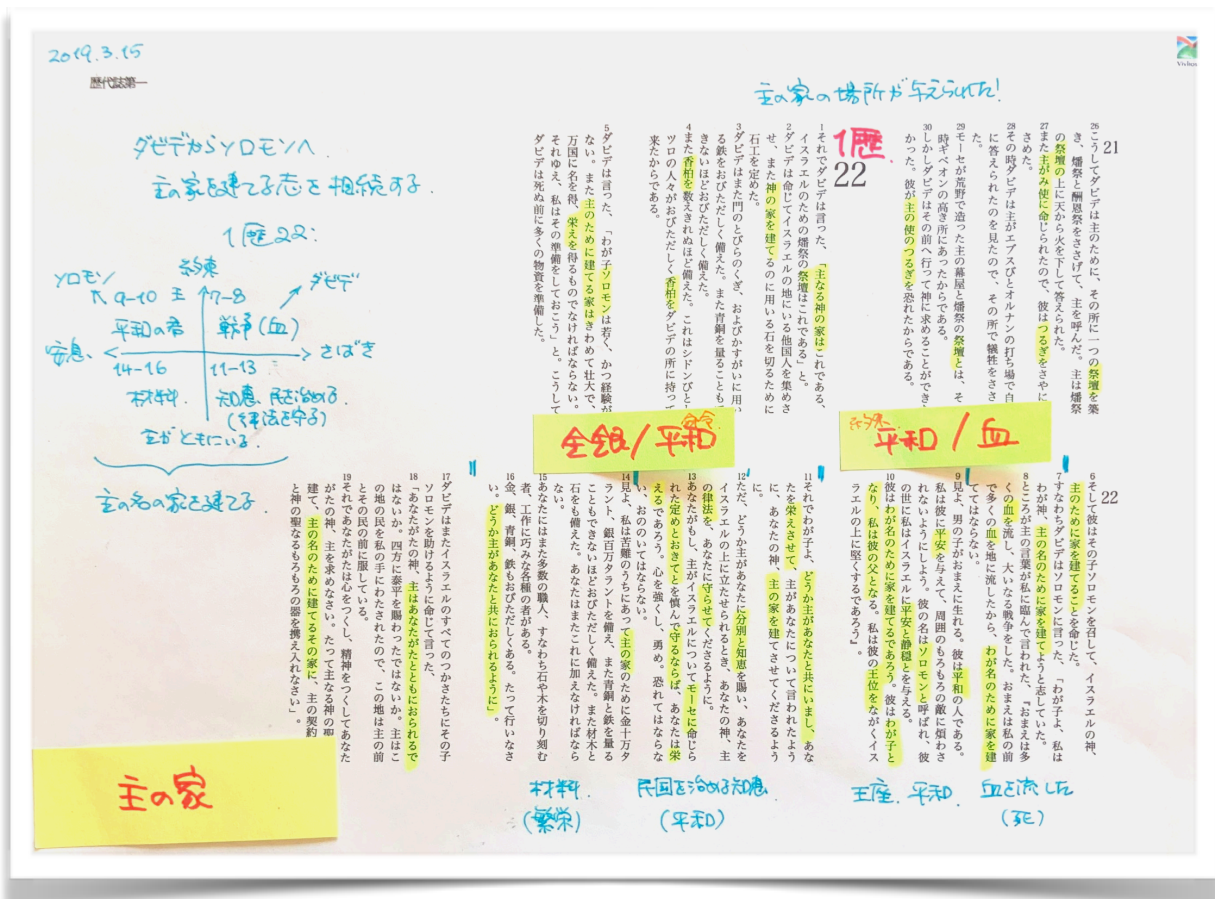




第1歴代誌22章と第1列王記2章

ダビデからソロモンへ



ダビデからソロモンに、ダビデが志したことをソロモンに相続する、ソロモンに命じるという2つの箇所です。ダビデの歴史、契約の歴史、ソロモンへが2つの流れがあります。

サムエル記・列王記側の王としての歴史。歴代誌の方は、礼拝制度みたいな感じなのですが、神様の住まいの歴史ということで、「王」と「家」というのが中心に流れているものだと思います。幕屋が作られてダビデの契約が与えられました。片側(右)のこちら側は王の方が続きます。こちら(左)は家の話が来て、またソロモンのところで1つの話にまとめられてるような感じです。この2つに分かれている家側(左)の方が、歴代誌第1の22章。王側(右)の方が列王記第1の2章ということです。

まず、歴代誌第1の22章です。主の家の場所はここですと言って祭壇を作って、ここなのだということがわかりましたと言った時に、主の主なる神の家はここですとイスラエルの祭壇はこれだということを

サム上2:ハンナの歌

サムエルの最後
サム上12:サムエルの最後のことは

ダ"ビ"テ"

歴上16:契約の箱が安置
歴上17:ダビデの契約

サム下6:ダビデの幕屋
サム下7:ダビデの契約

ダビデの最後
サム下22:ダビデの救いの歌 詩18:
サム下23:ダビデの最後のことば
サム下24:ダビデの人口調査

歴上21:ダビデの人口調査
歴上22:ソロモンへ契約を相続
歴上28-29:ソロモンに王位継承
歴下1:ソロモンの知恵
歴下5-6:契約の箱の安置と祈り
歴下7:ソロモンへの約束 詩篇第29
歴下9:シェバの女王

列上2: ソロモンへの遺言
列上3: ソロモンの知恵
列上8: 神殿奉獻の祈り
列上9: ソロモンへの約束
列上10: シェバの女王
列上11: ソロモンの背信

言って、この場所に建てますということが決まりました。あらかじめダビデに約束されていたその契約の箱が入ってきた時に、その契約の中に「あなたの子が家を建てる」と言われていましたので、ソロモンが建てるということはこの歴史書の中から分かりますけれど、ここでは、なぜダビデじゃなくてという理由も書かれています。その箇所が22章7節から16節までが、直接ソロモンに言った言葉ということですので、この中を見てください。それと、死ぬ日が近づいたのだというところ(1列王記2章)にも、もう一度この命令が書かれているということなのです。こちら(歴代誌)は主の家。こちら(列王記)は王座と書いてあります。

7節から10節が「神様が約束してくれたことば」。11節から16節は「主があなたと共にいてくださる。強くあれ、雄々しくあれ。共にいますという励ましのことば」というのが後半ということになります。前半が7節,8節と、9節,10節と2つに分けられます。7節,8節の方は、戦争して血を流してきました。だから家を建てるのにふさわしくない。9節,10節では、平和の君ソロモンが私の家を建てます。その王座は堅くされますという約束です。それでソロモンに家を建てさせてくださるように。そのために一番大切なのが知恵です。民をさばく知恵。モーセの教えに従って、さばく知恵によって国が堅く建てられる。家を建てる話と国を建てる話が一緒になっている感じです。それで、その家のために材料をすべて備えておきました、人も整えておきましたということこの話が終わります。

主が共にいて、ソロモンがやるべきことということと、神様が約束してくださったことが、ダビデ(7,8)、ソロモン(9,10)、ソロモン(11-13)、ダビデ(14-16)。ダビデがやったことに囲まれて、ソロモンがやることがあるような感じですかね。血を流してきた者。平和ではない。平和のために戦ったのですけれども平和ではないということです。それでも繁栄したことは繁栄した。敵をさばいて分捕り物、戦利品を持ってきましたので、これだけの財産があるということです。

7節,8節がさばきを行いました。それで平和が次の時代に来ると。11節から13節は、知恵をもって民をさばきます。14節から16節のところで、財産繁栄の話をしていますので、さばき(7,8),安息(9,10),さばき(11-13),安息(14-16)という順番かなとも思います。

ですから、3方向をクロスしてる感じですが、主の名の家を建てるという時に、平和の土台の家、知恵の裁きによる家。敵がいなくなって安息ということは出エジプト記の33章にも書いてあります。主が共にいて敵を追い出してくれて、平和に住むことができるようになるという約束のダビデ、ソロモンの時代の成就ということで、王が来て、家が建てられるということがこの第1歴代誌22章で言われているソロモンへの言葉。特に家を建てるということが中心になっています。

2019.3.15

列王記第一



1列王記 2

1. ダビデの死後が近づいたので、彼はその子ソロモンに命じた。

2. 「私は世のすべての人の行く道を行こうとしている。あなたがたは神、主のさしを歩む。その道に歩め、その定めを定め、おきてとあかしを。モーセの律法に守られて、あなたがたが守らなければならない。そうすれば、あなたがたが守るすべての事、あなたがたの向かうすべての所、あなたがたは栄えるであろう。」

3. また王がさきに私について語って、「もしおまえの子たちが、その道を歩み、心をくらし、精神をつくして、真実をもって、私の前に歩むならば、おまえに次いでイスラエルの位にのぼる人が、欠けることはなからう」と言われた言葉を確実にされるであろう。

4. またあなたはゼルヤの子アブが私にした事、すなわち彼がイスラエルのふたりの軍の長ネルの子アブネルと、エテルの子マサにした事を知っている。彼はこれらのふたりを殺して、戦争で流した血を太平の時に流す。罪のない者の血を私の腰のまわりの帯と、私の足のくつにつけた。

5. それゆえ、あなたがたの知恵にしたがって事を行い、彼らの血を安らかに陰府に下らせてはならない。

6. ただギレヤびとバルジライの子には恵みを施し、彼らをあなたの食卓で食する人々のうちに加えさせよ。私は私をあなたに迎えてきたの兄弟アサラムを避けて逃げた。またバホルムのベニヤミンとゲラの子シメイがあなたののろいの言葉をもって私をのろった。しかし彼がヨルダンへ下ってきて、私を迎えたので、私は主をさして彼に誓い、「私はつるぎをもってあなたを殺さない」と言った。しかし彼を罪のない者としてはならない。あなたは知恵のある人であるから、彼になすべき事を知っている。あなたは彼のしらがを血に染めて陰府に下らせなければならない。」

7. 王は世のすべての人の行く道を行こうとしている。あなたがたは神、主のさしを歩む。その道に歩め、その定めを定め、おきてとあかしを。モーセの律法に守られて、あなたがたが守らなければならない。そうすれば、あなたがたが守るすべての事、あなたがたの向かうすべての所、あなたがたは栄えるであろう。」

8. また王がさきに私について語って、「もしおまえの子たちが、その道を歩み、心をくらし、精神をつくして、真実をもって、私の前に歩むならば、おまえに次いでイスラエルの位にのぼる人が、欠けることはなからう」と言われた言葉を確実にされるであろう。

9. またあなたはゼルヤの子アブが私にした事、すなわち彼がイスラエルのふたりの軍の長ネルの子アブネルと、エテルの子マサにした事を知っている。彼はこれらのふたりを殺して、戦争で流した血を太平の時に流す。罪のない者の血を私の腰のまわりの帯と、私の足のくつにつけた。

10. それゆえ、あなたがたの知恵にしたがって事を行い、彼らの血を安らかに陰府に下らせてはならない。

11. ただギレヤびとバルジライの子には恵みを施し、彼らをあなたの食卓で食する人々のうちに加えさせよ。私は私をあなたに迎えてきたの兄弟アサラムを避けて逃げた。またバホルムのベニヤミンとゲラの子シメイがあなたののろいの言葉をもって私をのろった。しかし彼がヨルダンへ下ってきて、私を迎えたので、私は主をさして彼に誓い、「私はつるぎをもってあなたを殺さない」と言った。しかし彼を罪のない者としてはならない。あなたは知恵のある人であるから、彼になすべき事を知っている。あなたは彼のしらがを血に染めて陰府に下らせなければならない。」

12. このようにしてソロモンは父ダビデの位に座し、国は堅く定まった。

2サムエル16

支配. 道に歩む. 栄え. 王座. 栄え. 7-9 祝. 祝. 5-6 X平和. 知恵のさばき

王座が堅くされ

知恵. 血

王座

王座. 栄え.

ソロモンへの遺言.

1512:

第1列王記2章の方は、こちらは神の子、ダビデの子ソロモンが王として治めるところが中心になっている流れです。その出だしのところに、ダビデが死ぬ時に、相続の言葉を言うわけです。2節から4節までが約束で、5節から9節までが実際にやることみたいな感じです。これも「強くあれ雄々しくあれとモーセの教えに従って歩むならば栄えます。そしてその道を歩むならば、イスラエルの位にのぼる人が欠けることはない」と。王座が堅くされる、栄えることと、王座が堅くされること、栄えることと支配という言葉です。

具体的に、ヨアブは罪のない者の血を流して、平和に敵対していたということですかね。それと、バルジライとシムイの話ですけれど、これは祝福する者と呪う者。主に油そそがれた者を呪う、主に油そそがれた者を祝福する。恵み与えるという祝福と呪いの2つが、ここに出ているのだらうと。6節と9節の「知恵に従って事を行い、しらがを安らかによみに下らせてはならない」「血に染めてよみに下らせなければならない」というこの2つのところ。ここで、この2つに分かれている。5節、6節と、7節から9節の2つに分かれているのだらうと思います。これ(5/6-7-9)は知恵の裁き。2節から4節は主の道に歩む。「主の道に歩んで、善人悪人を裁く」というイスラエルの王様にふさわしいことをしなさい」ということを言っている。「それ

サム上2:ハンナの歌

サムエルの最後

サム上12:サムエルの最後のことば

ダビデ

サム上16:契約の箱が安置

サム上17:ダビデの契約

サム上6:ダビデの墓屋

サム上7:ダビデの契約

ダビデの最後

サム下22:ダビデの歌の歌 詩18:

サム下23:ダビデの最後のことば

サム下24:ダビデの人口調査

サム上21:ダビデの人口調査

サム上22:ソロモンへ契約を相続

サム上28-29:ソロモンに王位継承

ソロモン

サム上2:ソロモンへの遺言

サム上3:ソロモンへの知恵

サム上8:神殿奉納の祈り

サム上9:ソロモンへの約束

サム上10:シェバの女王

サム上11:ソロモンの貴信

サム上12:ソロモンの人口調査

サム上13:ソロモンの人口調査

サム上14:ソロモンの人口調査

サム上15:ソロモンの人口調査

サム上16:ソロモンの人口調査

サム上17:ソロモンの人口調査

サム上18:ソロモンの人口調査

サム上19:ソロモンの人口調査

サム上20:ソロモンの人口調査

サム上21:ソロモンの人口調査

サム上22:ソロモンの人口調査

サム上23:ソロモンの人口調査

サム上24:ソロモンの人口調査

サム上25:ソロモンの人口調査

サム上26:ソロモンの人口調査

サム上27:ソロモンの人口調査

サム上28:ソロモンの人口調査

サム上29:ソロモンの人口調査

サム上30:ソロモンの人口調査

サム上31:ソロモンの人口調査

サム上32:ソロモンの人口調査

サム上33:ソロモンの人口調査

サム上34:ソロモンの人口調査

サム上35:ソロモンの人口調査

サム上36:ソロモンの人口調査

サム上37:ソロモンの人口調査

サム上38:ソロモンの人口調査

サム上39:ソロモンの人口調査

サム上40:ソロモンの人口調査

サム上41:ソロモンの人口調査

サム上42:ソロモンの人口調査

サム上43:ソロモンの人口調査

サム上44:ソロモンの人口調査

サム上45:ソロモンの人口調査

サム上46:ソロモンの人口調査

サム上47:ソロモンの人口調査

サム上48:ソロモンの人口調査

サム上49:ソロモンの人口調査

サム上50:ソロモンの人口調査

サム上51:ソロモンの人口調査

サム上52:ソロモンの人口調査

サム上53:ソロモンの人口調査

サム上54:ソロモンの人口調査

サム上55:ソロモンの人口調査

サム上56:ソロモンの人口調査

サム上57:ソロモンの人口調査

サム上58:ソロモンの人口調査

サム上59:ソロモンの人口調査

サム上60:ソロモンの人口調査

サム上61:ソロモンの人口調査

サム上62:ソロモンの人口調査

サム上63:ソロモンの人口調査

サム上64:ソロモンの人口調査

サム上65:ソロモンの人口調査

サム上66:ソロモンの人口調査

サム上67:ソロモンの人口調査

サム上68:ソロモンの人口調査

サム上69:ソロモンの人口調査

サム上70:ソロモンの人口調査

サム上71:ソロモンの人口調査

サム上72:ソロモンの人口調査

サム上73:ソロモンの人口調査

サム上74:ソロモンの人口調査

サム上75:ソロモンの人口調査

サム上76:ソロモンの人口調査

サム上77:ソロモンの人口調査

サム上78:ソロモンの人口調査

サム上79:ソロモンの人口調査

サム上80:ソロモンの人口調査

サム上81:ソロモンの人口調査

サム上82:ソロモンの人口調査

サム上83:ソロモンの人口調査

サム上84:ソロモンの人口調査

サム上85:ソロモンの人口調査

サム上86:ソロモンの人口調査

サム上87:ソロモンの人口調査

サム上88:ソロモンの人口調査

サム上89:ソロモンの人口調査

サム上90:ソロモンの人口調査

サム上91:ソロモンの人口調査

サム上92:ソロモンの人口調査

サム上93:ソロモンの人口調査

サム上94:ソロモンの人口調査

サム上95:ソロモンの人口調査

サム上96:ソロモンの人口調査

サム上97:ソロモンの人口調査

サム上98:ソロモンの人口調査

サム上99:ソロモンの人口調査

サム上100:ソロモンの人口調査

が王座が堅くされるということです」と言っていますので、「父ダビデの位に座し、国は堅く定まった」と書いてあります。この王座系と主の家系というものの相続の志を相続する言葉ということでこの2つがあります。その流れは(別紙)この相続、死ぬ時のソロモンへの相続の言葉ということで、この第1歴代誌22章と第1列王記2章というのを覚えておいてください。